

定雖然奉重冥慮密其形爲紋今用松皮菱之下太是也

〔寛永系圖八〕米倉源姓家紋角内花菱

〔羽倉考二〕花菱ノ文ノ事

是ハ風流ノミナルベシ菱形ハ質樸ニシテ目ヲ悦バシメザル故花ヲ以テ菱ノ形ヲ摸セルナルベシ強テ義ヲ搜ランハ鑿ナリ

〔諸家系圖纂十九〕三木藤原家紋劔菱

〔寛永諸家系圖傳三十八〕石川

家紋二割菱

〔言成卿記〕慶應二年正月十五日今日町人禮少將令面會云々略中喜多川中西等

舊臘自家公賜當家紋折入菱著用來云々

〔寛永諸家系圖傳十三〕松平

忠利家紋澤潟

〔寛永諸家系圖傳十三〕小澤

家の紋茗荷の丸

〔永享後記〕享德三年十二月廿七日結城成朝大將にて鎌倉西御門管領の亭へ打て入る成朝が家人に武州牢人金子と云もの兄弟あり大手より責入憲忠を害し御首取てまいりたり成朝大によろこび則かれらをめしつれて御所中へ參上仕御白洲に畏る彼兄弟は無位の者なれども憲忠の御首平地置べからずとてたゝみを敷彼兩人を置公方兩人の名字を御尋あり成朝がねことは不呼結城家老の多賀谷が同名に被成多賀谷とめす此兩人則常陸の下妻の多賀谷の元祖祥永祥賀兄弟是也依之多賀谷の庭たゝみと云は此由來也又家の紋に瓜を用し事も彼の首に